

基準1 理念・目的

【現状の把握】

本学は、設置目的や建学の精神を踏まえ、女子に対して幅広く深い教養及び総合的な判断力を養成し、豊かな人間性を涵養するとともに、専門的な知識と技能を授け、有為な社会生活を営み、かつ地域社会の発展に貢献する人材を養成することを理念・目的とする。この理念・目的を達成するために英語英文学科、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科の4学科を設置している。

本学では昭和29年に大学学則が制定されて、本学の教育研究や人材養成の目的や基本方針が示されたが、その後の社会的ニーズや本学の教育的必要性などから改定が行われ、平成20年度には各学科の教育目標なども明記した学則改正を行った。本学の目的は、「岐阜市立女子短期大学学則」（別添資料）第1章第1条で、以下のように規定されている。なお、この学則は、「岐阜市立女子短期大学規程集」及び『学生便覧』に記載されている。

資料1-A 本学の教育目的

学則

第1条 岐阜市立女子短期大学（以下本学という）は、女子に対して幅広く深い教養及び総合的な判断力を養成し、豊かな人間性を涵養するとともに、専門的な知識と技能を授け、有為な社会生活を営み、かつ地域社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする。

（出典 岐阜市立女子短期大学学則の該当箇所）

本学で養成しようとする学生の資質は、①幅広く深い教養及び総合的な判断力、②豊かな人間性、③専門的な知識と技能の養成・涵養及び到達の3点である。すなわち、これら3点が、本学における学修・教育の目標・成果として設定されているものである。

学則第3条を踏まえ、学科ごとの教育目標を以下のように設定している。

英語英文学科

英米及び英語圏の言語、文学、文化などを学ぶことを通して、自己と世界に対して目を開き、豊かな教養を修得するとともに高い語学力を身につけ、国際的な場面や地域社会で活躍できる自立した女性を育成することをめざす。

上記のような目的を達成するため、以下に具体的教育目標をあげる。

① 英米文学、英語学等に対する幅広い専門的な知識を学ぶことを通して、自己を深く見つめ、世界を複眼的かつ合理的にとらえる思考力を修得し、異文化や他者を積極的に理解する態度を養う。

② 英語の運用能力向上に関しては、実用英語科目を系統的に修得することにより、実用英語検定2級以上の合格及びTOEICでの高得点をめざす。

国際文化学科

世界の多様な文化や価値観を理解し、言語コミュニケーション能力や情報コミュニケーション能力を身につけ、国際化・情報化した現在の社会において積極的・主体的に活躍できる人材の養成を目的とする。

その目的のために次の教育目標を掲げる。

① 自国日本を含めた世界の多様な民族文化、多様な価値観を理解し、相互の差異を認め、互いに尊重し合うことのできる、国際感覚を養う。

② 言語によるコミュニケーション能力の基盤として、まず日本語の運用能力や表現力のさらなる向上を図る。同時に国際的な意思疎通と相互理解のために、国際共通語としての英語力を充実させ、さらに昨今その重要度を増している中国語、韓国語の基礎的な語学力を身につける。

③ 情報化社会の中で生きていくために必要なコンピュータによる情報収集能力、情報処理能力、自己表現能力、通信技術など、コンピュータについての実用的な能力を身につける。全員が日本語ワープロ検定2級、情報処理技能検定2級の取得をめざす。

食物栄養学科

人々の健康維持・増進を図ることを目的に、人体、疾病、食品関係など幅広い分野の専門知識を身につけ、健康な食生活を企画・実践できる人材と、地域社会において栄養指導などに積極的役割を果たせる栄養士の養成を目標とする。

上記のような人材育成のため、次のような具体的教育目標を掲げる。

① 栄養や食生活の面から健康について学ぶばかりでなく、人体の構造と機能、食品と衛生、各種疾病の予防や食事療法、栄養の指導、給食の運営に至るまでの幅広くきわめて重要な分野を学ぶ。

② 実験・実習・卒業研究などを通して、高度な専門知識・技能のほか、協調性やコミュニケーション力などを向上させる。

③ 本学独自の開講科目により、管理栄養士に必要な知識も一部先行的に学ぶ。

④ 実践教育にも積極的に取り組み、インターンシップや卒業研究で地域との連携も図る。

生活デザイン学科

ファッション、建築・インテリア、ヴィジュアルデザインの分野において、素材選定から設計、制作に至るデザインの専門知識や技能を身につけ、人々の生活環境の向上のために活躍できる人材の養成を目的とする。対象とする専門領域により、ファッションデザイン専修、建築・インテリアデザイン専修、ヴィジュアルデザイン専修の3専修をおく。またファッションデザイン専修にはファッションデザインコースとファッションビジネスコースを設けている（平成25年度より従来の2専修4コースを3専修体制に移行。詳しくは基準4（22頁）参照）。

各専修の教育目標は次のとおりである。

① ファッションデザイン専修

〈ファッションデザインコース〉

衣服の製作、テキスタイル特性や色彩に関する知識や技術、感性や発想の表現方法を身につけ、デザイナーやパタンナーなど、アパレル企業でクリエイティブに活躍できる人材の養成をめざす。

〈ファッションビジネスコース〉

衣服の製作、素材物性や色彩に関する基礎知識や技術を身につけたうえで、商品知識、情報分析、商品計画・商品企画、流通の仕組みを修得し、ファッション商品の流通ビジネス分野で活躍できる人材の養成をめざす。

② 建築・インテリアデザイン専修

住居、建築構造、環境、建築設備など生活を支える空間づくりの考え方を学ぶとともに、建築・インテリア空間の意匠デザイン手法を実践的に習得する。大学での学びを通して、建築設計事務所、住宅メーカー、インテリアデザイン事務所などの専門分野で活躍できる人材の養成をめざす。

③ ヴィジュアルデザイン専修

視覚表現全般に関する知識と技術、発想方法について学ぶ。手作業によるアナログ表現とパソコンを用いたデジタル表現をバランス良く学習し、ポスター／パッケージ／Web／書籍などの各メディアの制作を通して視覚的訴求力を高めるための表現方法を修得することによって、印刷・出版業界でクリエイティブに活躍できる人材の養成をめざす。

4つの学科は、それぞれの専門領域の学修を総合的かつ系統的に追求するとともに、全人格的な成長を促す目的から、これを重視している。本学学則第1条の「女子に対して幅広く深い教養及び総合的な判断力を養成し、豊かな人間性を涵養する」との定め具体化である。その教育課程及び内容については、学科を越えた全学的な教務委員会において検討し、実施する体制を整え、7つの視点（現代社会の理解、自然・環境の理解、人間の理解、健康科学、情報科学、外国語、教養演習）からバランスをとって科目を配置して、人格形成の

ための教育を進める体制を整えている（これらは『学生便覧』及び『授業計画（シラバス）』に収録されている。「教務委員会規程」については別添資料参照）。

なお各学科の入学定員は以下に示すとおりである。

資料1-B 学科毎の学生定員

学則第2条 本学の学科及びそれぞれの学生定員は以下の表とする。

学科名	入学定員	収容定員
英語英文学科	50人	100人
国際文化学科	60人	120人
食物栄養学科	60人	120人
生活デザイン学科	60人	120人

（出典 岐阜市立女子短期大学学則の該当箇所）

【現状の分析・評価】

すでに述べたように、本学の教育研究の目的は学則第1条において、「女子に対して幅広く深い教養及び総合的な判断力を養成し、豊かな人間性を涵養するとともに、専門的な知識と技能を授け、有為な社会生活を営み、かつ地域社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする」と規定している。この目的を達成するため、社会の変化、学生の学びへの要求の変化に応じ、必要な改組、カリキュラム改革に取り組んでいる。個々の改革については後に具体的にふれるが、毎年、各学科レベル、教務委員会、教育科学研究委員会などにおいて、1年間の活動の報告と当該年度の活動計画の作成を行い、長期的、短期的な課題の明確化を図り、総務委員会及び教授会において審議のうえ、これを承認するという手続きを経て、十分とはいえないまでも、短大・学科レベルでの理念・目的の適格性についての必要な検証を行っている。

同時に、本学では、以上のような理念・目標に照らし、教育目標の達成に向けて着実な実践を行うことはもちろん、さらに社会情勢や社会的ニーズの変化に対応して、学則に定める規定の枠内において教育目標の改編を、当該する委員会、教授会での審議を経て実行に移すという体制をとっている。

本学の教育研究、人材養成の目的などの周知については、①教職員、②本学の学生、③学外の受験生など高校、④地域住民や一般社会の四者、のそれぞれに向けて発信または説明に意を用いている。それらは学生『学生募集要項』や『大学案内』、本学のWebサイトなどを通して社会に公表している。

教職員には、主に本学の規程集によって周知させているほか、新任教職員に対しては、学科ごとに行われる新任者研修によって、また必要に応じて学長による研修を設定するなど、その理解を促している。また教員採用やカリキュラム編成などの機会に、学科会議や教員選考委員会、各種委員会などにおいて短大の目的に沿うものであるかどうかを検討することを通して、本学の目的についての理解を深めている。

学生に対しては、学則に記載された『学生便覧』を通して本学の目的を周知させているが、新入生については入学時のガイダンスにおいて、全学的にも、また学科ごとにも、『学生便覧』に基づき丁寧に説明し、学生の理解を得るようにしており、その目的は十分に達成されていると考えている。

学外の受験生や高校へは、大学の目的、各学科の教育目標、アドミッション・ポリシーを記載したWebサイトの公開、『学生募集要項』や『大学案内』の直接的な送付を通じて周知を図っている。また高校訪問やオープンキャンパス、大学祭や進学ガイダンスなどでも、これらの資料を配付して周知・説明を行っており、本学の使命や現状については十分に理解されていると思われる。

本学は市立の短期大学ということから、大学の目的、教育目標などは、設置者の側にも議会に対しても公表しているが、市民や広く社会に対しては、主としてWebサイトを利用して広報を行っている。行政当局はもちろん、市議会においても必要な理解を得よう努めており、本学の事業に対する理解は浸透している。また、学生が就職した企業には、教職員が学生の就職活動開始時期に直接訪問して本学の説明を行っている。

上記のほか、生活デザイン学科は、学外における卒業研究発表会、地元企業や専門学校、高校との連携によるファッションショーの開催などを通じて、本学の目的や活動実態を広く関係分野に知らしめている。

【改善方策の検討】

本学は、その教育研究の目的：「女子に対して幅広く深い教養及び総合的な判断力を養成し、豊かな人間性を涵養するとともに、専門的な知識と技能を授け、有為な社会生活を営み、かつ地域社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする」（学則第1条）を達成するため、社会の変化、学生の学びへの要求の変化に応じ、必要な改組、カリキュラム改革に取り組んでいる。個々の改革については後に詳論するが、毎年、各学科レベル、教務委員会、教育科学研究委員会などにおいて、1年間の活動の報告と当該年度の活動計画の作成を行い、長期的、短期的な課題の明確化を図り、総務委員会及び教授会において審議のうえ、承認するという手続きを経て、十分とはいえないまでも、短大・学科レベルでの理念・目的の適格性についての必要な検証を行っている。

とはいえ、広報活動の不十分さは本学の知名度が岐阜、愛知の近隣に限定されているという面に現れている。Webサイトのリニューアルを機に改善に取り組んでいるが、その成果はいまだ判断しうる段階にない。

より重要なのは、本学の理念、目的、教育目標、さらには近年各大学が取り組んでいるカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーなどについて、現在までの施策を踏まえ、よりわかりやすく、より整理された形で策定・再編を行い、その公表及び周知についても、必要な対応を早急に行わなければならないと思われる。